

2025 年第 3 週の報告です。

定点報告対象の疾患は、**インフルエンザ**の流行発生警報レベルが全国・京都府とも継続しています。保健所別の定点報告数では、京都市上京区・中京区の警報が解除され、北区・下京区では注意報が解除されました。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の警報レベルは京都市右京区で継続、**伝染性紅斑**は京都市右京区で警報レベルが継続しているほか、京都市南区・西京区・乙訓が新たに警報レベルになりました。眼科定点は**流行性角結膜炎**が 10 件、基幹定点は**マイコプラズマ肺炎**が 12 件と**クラミジア肺炎**が 1 件報告されました。

全数報告対象疾患は**結核・侵襲性インフルエンザ菌感染症**と**百日咳**がそれぞれ 4 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 3 件、**梅毒**が 1 件報告されました。

感染症法で定点報告対象（5 類感染症）となっている**クラミジア肺炎**は肺炎クラミジアおよびクラミジア・トラコマティスという細菌の感染により発症する肺炎です。クラミジアによる肺炎としてはもう一つ、オウム病と呼ばれる肺炎もありますが、こちらはオウムやハトなどの鳥と人とがともに感染する別種のクラミジアによる人獣共通感染症であって 4 類感染症に指定されています。肺炎クラミジアによる肺炎は小児期から成人・高齢者まで広くみられ、飛沫感染します。クラミジア・トラコマティスによる肺炎は主に新生児・乳児期に見られ、子宮頸管炎をもつ母体から分娩時に産道感染で罹患します。なお、トラコマティスが性器に感染した場合は性器クラミジア感染症と呼ばれ、わが国の性感染症のなかで最も多いものになります。これらのクラミジアは一般的な細菌と構造が異なっていて、マクロライド系など一部の抗菌薬のみだけが効果を示します。予防効果のあるワクチンはありません。肺炎に罹患した場合はマスクを着用するなど咳エチケットに努めましょう。母子感染を防ぐためには妊婦健診を確実に受け、診断された場合は処方された抗菌薬を決められた期間しっかりと服用しましょう。